

土砂災害に関する用語集

10分雨量

10分間に降った雨の合計

時間雨量

60分間に降った雨の合計

連続雨量

雨の降り始めからの積算雨量。24時間雨が降らなかったときにリセットされる。

解析雨量

アメダスや自治体等の雨量計による正確な雨量観測と気象台レーダーによる広範囲にわたる面的な雨の分布・強さの観測とのそれぞれの長所を組み合わせ、より精度が高い面的な雨量を1キロメートル格子で解析したもの。

大雨注意報

気象台が、大雨によって災害が起こるおそれがある場合にその旨を注意して概ね市町村単位で発表。

大雨警報

気象台が、大雨によって重大な災害の起こるおそれのある旨を警告して概ね市町村単位で発表。土壌雨量指数基準に到達すると予想される場合は「大雨警報（土砂災害）」が発表。

大雨特別警報

気象台が、台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表。

土砂災害発生危険基準線

過去の災害発生や降雨のデータ分布により設定され、土砂災害発生の危険が高くなる領域と比較的低い領域を区分する境界線。

土砂災害警戒情報

大雨警報（土砂災害）が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、市町村長の避難勧告や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表する。

土砂災害に関するメッシュ情報

大阪府が提供する土砂災害危険度をより詳しく示した情報。土砂災害の恐れのある地域に関して 1km メッシュごとに危険度を表示する。

1km メッシュ

総務省の「統計に用いる標準地域メッシュおよび標準地域メッシュ・コード」により全国的に定められている 3 次メッシュ。

総務省 HP <http://www.stat.go.jp/data/mesh/gaiyou.htm>

土壌雨量指数

土砂災害発生の危険性を示す指標で、降った雨が土壌中に貯まっている状態を示す指数。解析雨量、降水短時間予報をもとに、全国くまなく 5km 四方の領域ごとに算出する。

記録的短時間大雨情報

大雨警報が発表されている時に、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測、または解析したことを発表する情報。現在の降雨がその地域にとって希な激しい状況であることを周知するために発表する。

土砂災害防止法

土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域についての危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進しようとする平成 13 年 4 月 1 日に施行された法律。

詳しくは、<http://www.pref.osaka.lg.jp/damusabo/dosyahou/index.html>

土砂災害警戒区域

土砂災害防止法に基づく基礎調査結果により、土砂災害のおそれのある区域として指定される範囲で、市町村が主体で警戒避難体制の整備が行われる区域。土砂災害の危険性が高まったときに、特に避難が必要な範囲。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害防止法に基づく基礎調査結果により、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある区域として指定される範囲で、区域内では住宅宅地分譲や高齢者等の災害時要配慮者が利用する施設のための開発行為の許可、建築物の構造規制が必要になる。

土砂災害危険箇所

土石流の発生の危険性がある溪流である「土石流危険溪流」と、傾斜 30 度以上、高さ 5メートル以上の急傾斜地である「急傾斜地崩壊危険箇所」、地すべりの発生の危険性がある箇所の「地すべり危険箇所」の総称で、危険な箇所を示すのみで法律による規制等はない。

がけ崩れ

雨で地面にしみこんだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が急に崩れ落ちる現象。崩れ落ちる速度も速く、地震が原因で起こることもあり、人家の近くで起こると、人的被害が大きくなる。

土石流

急な溪谷を水が含んだ大量の土砂・礫が津波のように流れ下るもので、「山津波」とも呼ばれる現象。流れの先端部に大きな礫があることが多く、その流れの速さは時速 20～40km という速度で一瞬のうちに人家や田畑を壊滅させる。

地すべり

粘土質など滑りやすい土質を境目に、その上部の地面が動き出してゆっくり滑り落ちる現象。がけ崩れに似ているが、発生規模が広範囲に渡り、傾斜のゆるい斜面でも発生し、ゆっくりと継続的に滑ることもある。

前兆現象


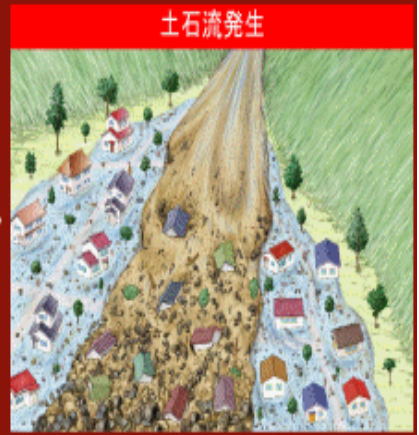
がけ崩れや土石流、地すべりなどの土砂災害は、その発生前に危険な兆候が現れると言われており、早めの自主避難など十分注意が必要。

▷がけ崩れの主な前兆現象

湧水量の増加 表面流の発生	小石がパラパラ落下 新たな湧水の発生 湧水の濁り	湧水の停止 湧水の噴き出し 亀裂の発生 斜面のはらみ出し 小石がポロポロ落下 地鳴り
------------------	--------------------------------	---



▷土石流の主な前兆現象

<p>流水の異常な濁り</p>	<p>渓流内で転石の音 流木発生</p>	<p>土臭い匂い 地鳴 流水の急激な濁り 渓流水位激減</p>
<p>土石流</p> 		<p>土石流発生</p> 

▷地すべりの主な前兆現象

<p>井戸水の濁り 湧水の枯渇 湧水量の増加</p>	<p>池や沼の水かさの急変 亀裂・段差の発生、拡大 落石、小崩落 斜面のはらみだし 構造物のはらみだし、クラック 根の切れる音 樹木の傾き</p>	<p>地鳴り、山鳴り 地面の震動</p>
<p>地すべり</p> 		<p>地すべり発生</p> 

避難準備・高齢者等避難開始

避難の準備や、高齢者等の災害時要配慮者が避難を開始する目安として、大雨警報（市町村から発令される情報。気象情報に注意を払い、立ち退き避難の必要について検討し、必要であれば避難の準備を行う。

避難勧告

一刻も早く立ち退き避難する目安として、土砂災害警戒情報を基に市町村から発令される情報。

避難指示（緊急）

まだ立ち退き避難が済んでいない者が立ち退き避難する目安として市町村から発令される情報。立ち退き避難が危険な状況で屋内に残っている場合は屋内安全確保をする。

屋内安全確保

屋内での退避等の安全確保のこと。自宅等の建物内に留まり安全を確保する避難行動。

指定避難所

災害対策基本法の規定により、災害により住宅を失った場合等において、一定期間避難生活をする場所。市町村によって指定される。

垂直避難

切迫した状況において、屋内の2階以上に避難すること。屋内安全確保の1つ。

水平避難

その場を立ち退き、近隣の少しでも安全な場所に一時的に避難すること。または、居住地と異なる場所で生活を前提とし、避難所等に長期間避難すること。立ち退き避難と同意。